

「奥長良川名水館」竣工

高賀の森水発売へ!!

梅雨の間の晴天に恵まれた六月二十三日(水)、ミネラルウォーターの製造工場「奥長良川名水館」が洞戸村栗原に完成。林野庁長官(代理進藤森林組合課長)、梶原岐阜県知事等来客多数を迎え、関係者、約二百名が出席して竣工式が行われた。

これまで洞戸村の森林・高賀神社の入口で湧き出る清水を用いて製造した「高賀の神水」を県森連と洞戸村森林組合が連携して販売していた。

この水は硬度が低く、口当たりがなめらかなことから評判となり年間十五万本余の販売実績(平成十年度)を上げるまでになった。

そこで本格的な事業として取り組むため検討を進めていたところ、この事業が林業構造改善事業として採択されることになり、平成十年十二月に、洞戸村、県森連、洞戸村森林組合の出資により第三セクター方式の「奥長良川名水有限公司」(代表取締役社長 船戸行雄)を設立した。その後、岐阜県名産販売会社も出資者に加わることになり、文字通り岐阜県

を代表する「森水」として、販売されることになった。新しい名前前は、「高賀の森水」とし、全国展開を目指すことになった。

今年二月から工場建設に着工しこのほどミネラルナチュラルウォーター工場を完成した。「奥長良川名水館」は、洞戸村産の木を使った木造平屋建て八百四十八平方メートル。工場から五キロ北の水源地からタンクローリーで一日最大三十二トンの自然水運び込み、セラミックフィルターで除菌後、バイオクリーンルームの中にクリーンブースを設備した無菌充填室でペットボトルに充填する。従来の加熱殺菌充填方式だと



従業員の説明を受ける
梶原岐阜県知事

天然のまろやかな味が損なわれ、水が本来持っている機能が死んでしまうので非加熱無菌充填方式を採用し、既在のメーカーとの差別化をはかった。この方式は岐阜県では初めてであるが、全国的に見

てもこれ程の完成度の高いプラントはないようだ。

従業員は十一人。国・県の補助金を含む総事業費は約三億六千万円、「高賀の森水」としてに七月一日に初出荷の予定。生産計画としては平成十一年度百万本。平成十二年度二百万本、平成十三年度三百万本と倍増の計画。

この日は、オープンニングに先立って神事が厳かに行われ、船戸社長等関係者が事業の発展を祈って玉串を奉納した。進藤林野庁森林組合課長(長官代理)、高田農林商工部参与(知事代理)、清水十六銀行頭取、武藤洞戸村長、外崎全森連専務理事(会長代理)、

大根愛知工業大学教授、船戸社長の名がテープカット。式典では、船戸社長が「奥長良川の水を全国の人々に飲んでもらえるよう頑張りたい。高賀の森水事業は洞戸村だけでなく地域の活性化につながる。皆さんのご支援をお願いしたい。」とあいさつ。

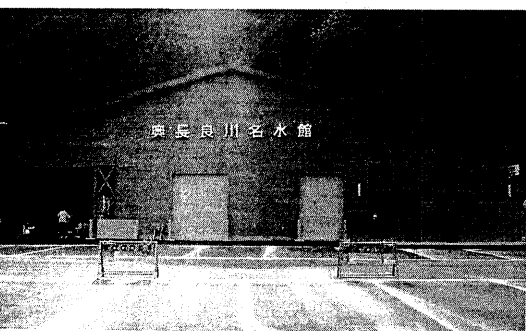
続いて事業経過報告、感謝状贈呈が行われ、林野庁長官、岐阜県知事、愛知工業大学教授から祝辞があつた。引き続き出席者全員で館内を見学。清潔な工程を見て廻つたが、初めて見る機械設備に興味深そうに見入っていた。

その後、板取川洞戸観光ヤナで祝賀会を開催し、「奥長良川名水館」の竣工を祝った。

【県森連 中村信正】



船戸社長あいさつ



「奥長良川名水館」北面全景